

県勢 ロボ相撲世界一

ラジコン部門で「マルす部屋」松永教諭

【東京支社】ロボット相撲の全日本大会と世界大会が18日、東京・両国国技館で開かれ、大分工業高校未来ロボット工学研究部顧問の松永芳史教諭(45)が率いる大分県勢チーム「マルす部屋」がラジコン型と自立型の両部門で日本一に輝いた。世界大会でも同部屋の松永教諭が操作するロボット力士「R☆Ace(リターンエース)」がラジコン部門で激戦を制した。ロボット相撲界のレベルが上がる中、大分県勢の実力を世界に見せつけた。

日本大会は2部門V



ロボット相撲の世界大会(ラジコン型)を制した松永芳史教諭(中央)=18日、両国国技館



全日本大会(自立型)を制し、横綱の座に就いた「マルす部屋」の茨木里香さん(左)と上村優太さん

大会は▽64チームが出場する日本大会▽日本大会を勝ち抜いた上位2チームを含む、22万国計72チームによる世界大会の2本立てで開催。自動で動くプログラムを内蔵した「自立型」、土俵のそばで操作する「ラジコン型」の2部門で、それぞれ2本先取のトーナメント形式で競った。松永教諭と愛機「R☆Ace」は、相手の出方をしっかり見て動く落ち着いた

戦いぶりで日本大会を制覇。続く世界大会も集中力を途切れさせることなく、相手の「力士」をはじき飛ばすほどのパワーと速さで圧倒的な存在感を示した。自立型に出場した同部屋

チームの「NORISK(ノリスク)」も、操作者の茨木里香さん(45)と鶴崎工業高教諭、補助者で大分工業高未来ロボット工学研究部OBの上村優太さん(20)と社員2人の冷静な判断に基づきプログラミングで国内横綱に。ただ、世界大会では1回戦で惜しくも敗れた。

両チームとも昨年は日本大会の決勝戦で敗れたが、今年は見事に雪辱を果たした。さらに世界一の座まで手にした松永教諭は「21年前から取り組んでおり、感無量。世界のレベルが上がっているが、教え子たちも戦い方を参考に後に続いてほしい」と期待を寄せた。日本大会には大分県内からほかに大分工業高、大分大など8チームも出場。県内組がロボット相撲界で一大勢力を築いている。

(吉良政宣)